

中・東欧の交通ハブを目指すポーランド ～新中央空港（CPK）建設計画～

駐日ポーランド共和国大使館

政務・経済部 二等書記官 マウゴジャータ・シュミット

Tel: 03-5794-7030 e-mail: malgorzata.szmidt@msz.gov.pl

新中央空港（CPK）の建設は、ポーランドにおける数十年に一度の大規模インフラプロジェクトです。政府が短期的なポーランド経済発展の方向性を定めた「責任ある開発戦略」にも国益に適った戦略的取り組みとして掲げられています。CPKの建設地は、東西南北に走る鉄道網および道路網が交差するポーランドの中心であり、最適な地理的条件を備えています。2020年代後半の完成をめどに、計画が進められています。新中央空港株式会社（CPK社）のミコワイ・ヴィルト代表取締役社長は「CPKは、高速鉄道網と高速道路網に直結したポーランド随一の交通の要所になります。最良のパートナーと協調したいという思いから、日本にも協力を仰ぎました。日本のように豊かで、高度に発展・整備された国では、即座に乗り換えを可能とする、鉄道網と一体化した空港が大きな役割を果たしています。ポーランドにおいて高速鉄道網が直結した近代空港を実現させるのが、今回のプロジェクトです」とコメントしています。

CPKはポーランドのみならず中・東欧のハブ空港となることを目指しています。ポーランドをはじめドイツ、チェコ、スロヴァキア、ウクライナ、ベラルーシなど近隣諸国の主要都市を結ぶ高速鉄道網に直結した近代的な国際空港の周辺には、国際展示場、会議場、オフィス群などを備えたエアポートシティが誕生します。

新空港建設は、ポーランド政府が優先事項として財政的にも全面的にバックアップし、開発会社であるCPK社は100%政府が所有しています。

CPKプロジェクトは空港、鉄道、空間設計の3部門で構成されています。空港および隣接するエアポートシティ建設用の敷地面積は3000haにのびます。その



計画から施工に至るまで、CPK社は政府・民間レベルの両方で日本を

含む諸外国のパートナーとの国際的な協調を必要としています。

今年1月にマテウシュ・モラヴィエツキ ポーランド共和国首相が日本を公式訪問した際には、建設計画への日本の参入が主要議題のひとつとなりました。マルチン・ホラワCPK政府全権代表とヴィルトCPK社代表取締役社長が随行し、国土交通省をはじめ官民の関連企業にプロジェクトの概要を説明し、日本の協力を模索しました。現在も国土交通省と協力内容の調整、具対化するための協議が続けられています。

ポーランド政府の投資計画では、首都ワルシャワから西へ37km、同時に人口第3位の都市ウッチから東へ90kmの地点に空港が建設されます。現在の試算では開業年の総旅客数は4500万人、貨物取扱量は100万トンを見込んでいます。空港部分の投資プロジェクトに関しては、これを統括する戦略アドバイザーが選定される予定で、その候補のひとつが成田空港株式会社です。今年後半に実施される入札で決定されます。また、同時に空港の建築施工者の選定が行われています。

プロジェクトの第2部門として、諸外国の経験とノウハウを活かそうとしているのが鉄道部分です。これには、既存路線2400kmの近代化と1600kmに及ぶ新規路線の敷設、最新の技術を導入した高速鉄道網の整備が含まれます。これによりワルシャワとポーランドの大半の主要都市間の移動が2時間半以内に短縮されます。鉄道インフラへの投資で欠かせないのは、CPKに乗り入れる高速鉄道の車両、少なくとも130編成の調達です。CPK社が国内各地から新空港に通じる新規路線の敷設ルートについて「戦略的配置調査書」を公開し、広く意見を募ったところ3万3000通の提案や要望が寄せられ、現在その分析が行われています。

ポーランドは、鉄道・空港インフラ、交通制御、空港管理の分野で諸外国の協力パートナーを求めています。空港の空間設計およびエアポートシティの建設は、外国企業にとって、またとない大規模かつ採算性のある投資機会となっています。日本の先進技術と豊富な知見が、CPK建設プロジェクトの実現に活かされることを期待しています。